

## お知らせ

### ～頸椎人工椎間板について～

稲沢市民病院脊髄末梢神経センターでは、平成 29 年 12 月 1 日付で保険適応になった頸椎人工椎間板の手術を行うことができます。

今回使用できる人工椎間板は、PRESTIGE LP Cervical Disc システムといい、2017 年（平成 29 年）5 月 12 日に厚生労働省から承認されたものです。保険が適用される人工椎間板が日本で初めて導入されたこととなります。しかし、最初の導入であることから、事を慎重に進めなければなりません。頸椎前方手術は合併症が多いとされ、脊椎脊髄専門施設でさえあまり行われなくなっているのが現状です。そこで今回、頸椎前方手術に慣れた施設が選定され、市販後調査という形で、術後の臨床経過を追跡することになりました。2018 年 1 月 4 日現在で全国 18 施設が頸椎前方手術の基準をクリアしており、順次手術が施行されていくこととなります。

頸椎人工椎間板の利点は、手術部位の頸椎運動機能が温存されることにあります。現在行われている頸椎前方手術の多くは固定術であり、手術後にその部位の運動機能は失われる運命にありました。その点において、人工椎間板は非常に画期的なものではありますが、私たちはこれまでに、固定をしないで運動機能を温存する前方手術（経椎体椎間孔拡大術）を多く行ってまいりました。今なお実績を重ねており、遠方からわざわざ手術を受けに来られる患者さんもみられます。

したがって私たちの施設においては、人工椎間板手術と、これまでの固定をしない経椎体椎間孔拡大術の使い分けをどうしていくかが課題になっています。しかし明らかに人工椎間板のほうが良いであろうという症例もあり、そのような症例では積極的に利点を説明し、人工椎間板の手術を行うことを勧めています。

私たちは、神経所見のないものに対しては基本的に手術をしていません。診察で得られた神経所見が MRI などの画像所見と一致する症例に対してのみ手術をお勧めしています。この方針を忠実に守ることにより、良好な手術成績をあげることが可能になり、そのために今なお頸椎前方手術を非常に多く手掛けることができているものと思っております。

手術を勧められている患者さんで、どうすればよいのかお悩みの方は、当院の脊髄末梢神経センターを受診してみてください。（紹介状を持参して頂ければ、診察がよりスムーズになります。）

原 政人

稲沢市民病院副院長・脊髄末梢神経センター長・脳神経外科部長